体験版

ストーリー付き３DCG集

鎮め血の巫女

ざこきゃら堂

第一話　潜入

「きゃ！」

巫女は後ろから、悪党に腕を押さえつけられる

「残念だったなあ、作戦が失敗して」

「こ、攻撃魔法で…あうっ！」

もう一人の悪党が、巫女の顔を強打する

「それも対策済だぜ、巫女様。ここじゃ、魔法は使えねえ」

その意味は、腕力のある男二人と、ただの娘が一人

「俺たちを捕まえために、人払いをしたのが、逆効果だったなあ」

「きゃああ！！」

「誰にもあんたの悲鳴は、聞こえねえよ、はははは！」

悪党の一人は、腹を殴りつつげる

「…ごほっ……降参…します…やめて……」

「時間がねえっていったろう、はやく殺れ」

「悪い悪い、でもよ」

「ぁぐっ！！」

そして、強い一撃を巫女に放った

「この身体で遊ばねえのは、おしいじゃねえか」

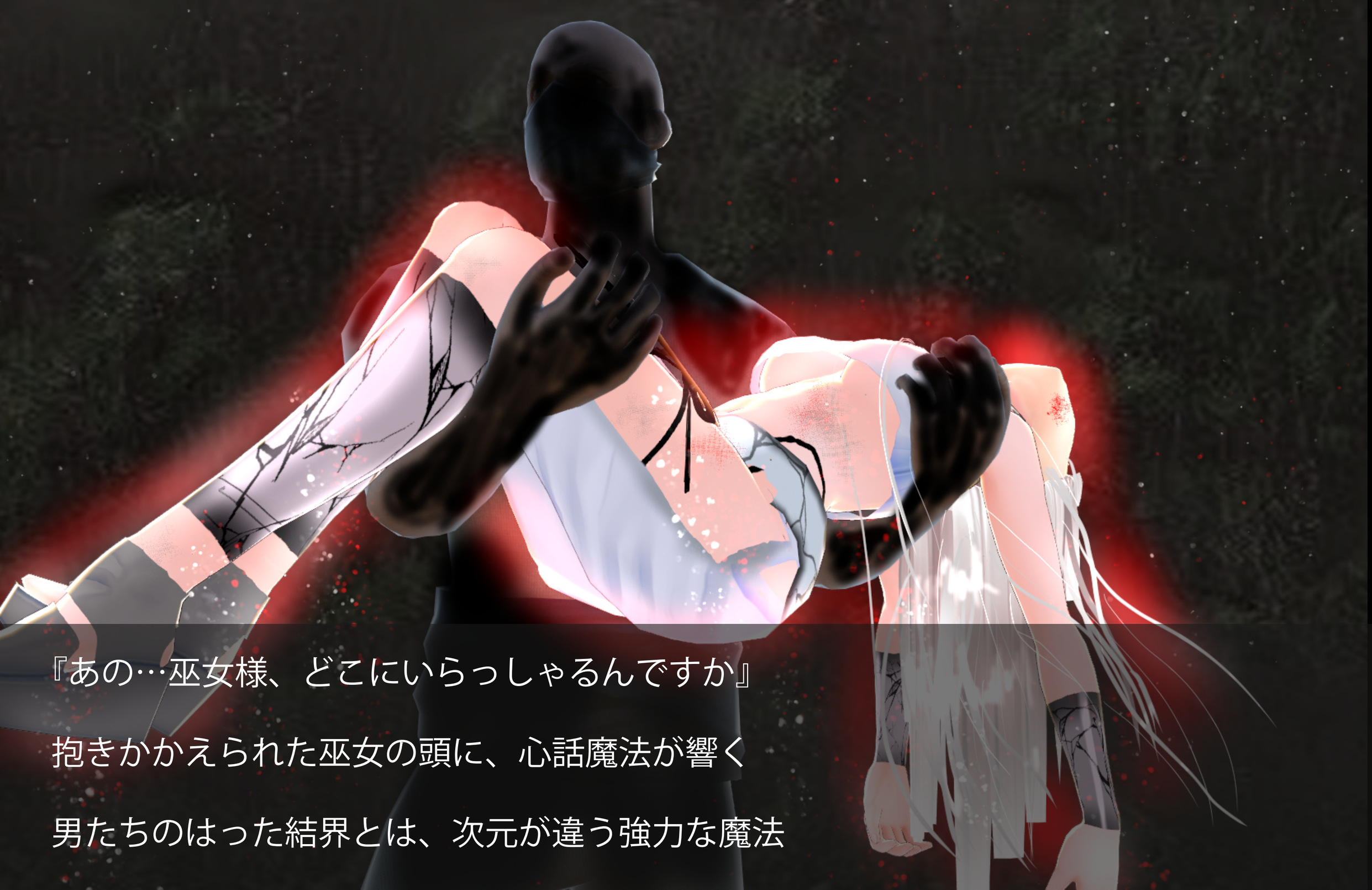
意識のなくなった巫女を、地面に巫女を落とす

「ひひ、そうだな、魔法さえ封印すれば、ただの女だ」

全身を眺め、加虐性がわきあがり、もう一人の男も同意する

「……うぅ……」

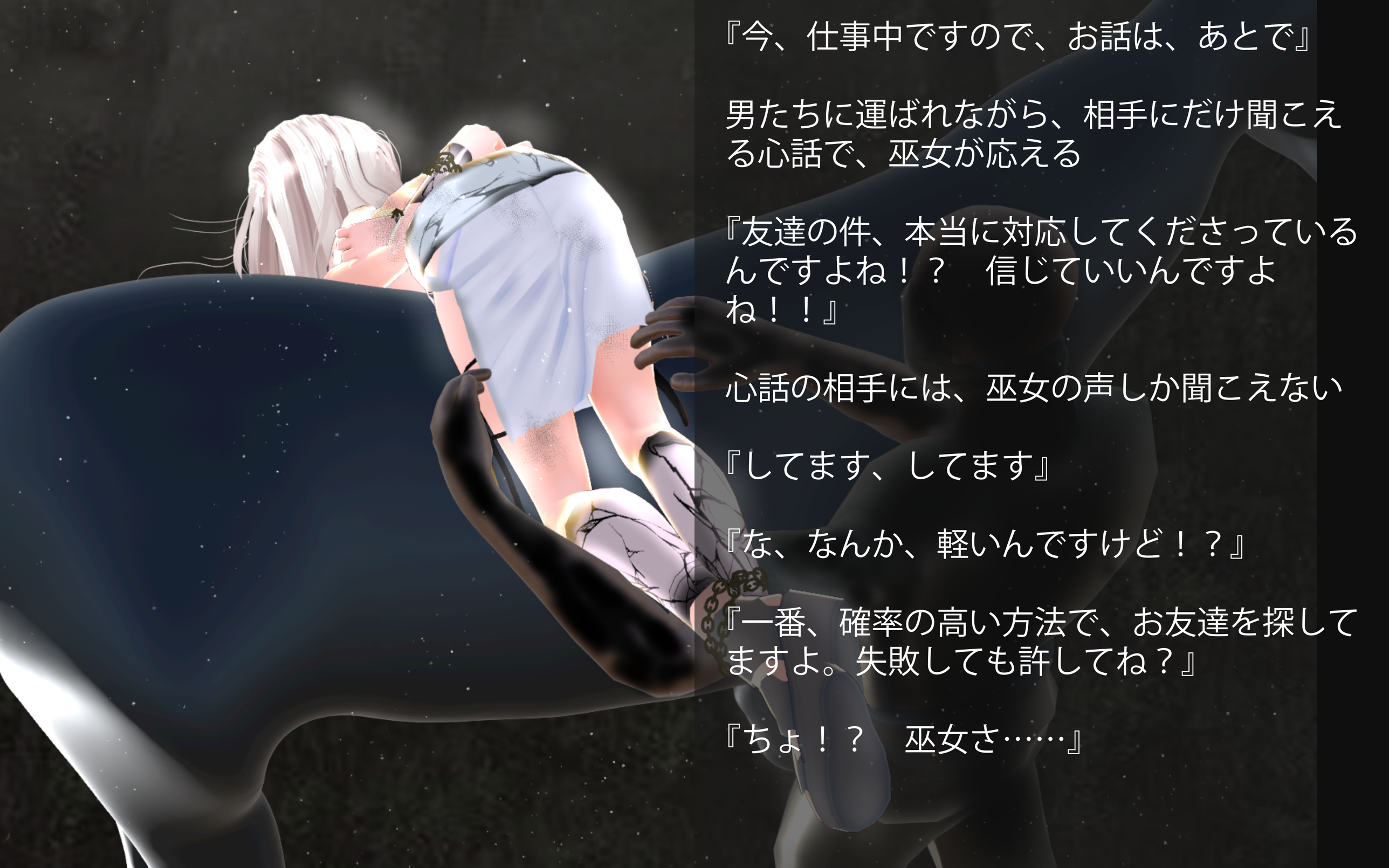
何度も殴打し、巫女が反撃できないことを確認する



『あの…巫女様、どこにいらっしゃるんですか』

抱きかかえられた巫女の頭に、心話魔法が響く

男たちのはった結界とは、次元が違う強力な魔法



『今、仕事中ですので、お話は、あとで』

男たちに運ばれながら、相手にだけ聞こえる心話で、巫女が応える

『友達の件、本当に対応してくださっているんですよね！？　信じていいんですよね！！』

心話の相手には、巫女の声しか聞こえない

『してます、してます』

『な、なんか、軽いんですけど！？』

『一番、確率の高い方法で、お友達を探してますよ。失敗しても許してね？』

『ちょ！？　巫女さ……』

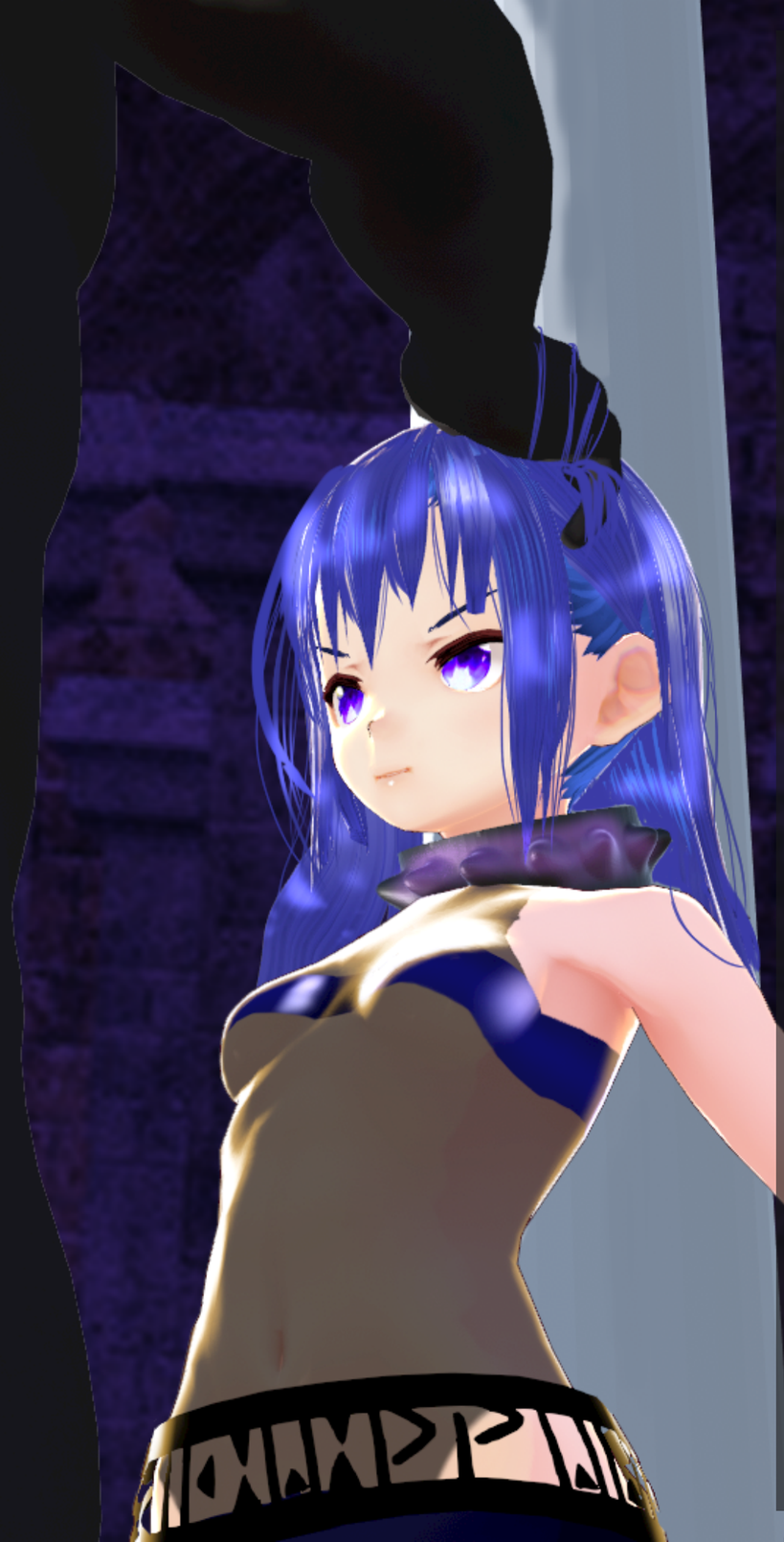
そして、巫女のほうから心話を切った

ーーこれは、すごく怒られますね、あ…

「これから、もっと、楽しい場所に連れてってやる」

男は、苦しい体制の巫女の首を掴み、ささやきかける

ーー失敗したら、怒られる機会は消えますか…ふう…



「魔法が得意なやつほど、その魔具はきついだろう」

街を騒がす、魔力の強い者をさらう集団の標的にされた

魔具から発する強力な封印で、魔法を使えない

「小娘が一人で暮らすのは、危ないぜ」

髪を乱暴に掴まれ、上を向かされる

「俺たちは、そのほうが愉しめるけどな、ひひ」

――くそ…

そして、強い衝撃がはしり……

「どうも、いつも、うちのお嬢様がお世話になっております」

巫女のはなった魔法攻撃で、男は気絶した

「微力でも、魔力感知されますので、最低限の治療を…」

「……」

「あら、怪我をしていないようですね。おとなしくしていたとは、お嬢様の言われた通り、賢くていらっしゃる」

「……え？」

「では、魔具を外しましょう」

強力な封印の魔具

魔法使いの娘は、どれほど強い力を使うのかと身構えていた

――針金で一本で……

「ああ……神殿に持ってかれるなんて……高く売れそうなのに…はあ」

「あ…どうしてボクを……」

「彼らの始末は、神殿のほうで対応しますので、仕返しは、我慢してくださいね」

魔具を取り外した今、魔法使いの娘は、ここにいる者達を全滅させる魔法を取り戻していた

「よかったーー！！　巫女様、約束守ってくれたーー！」

ーーなるほど、お嬢様とは、この娘か

神殿の巫女が、【汚れた魔法使い】を助ける意味が、わからなかった

「…君が、ボクのことを、巫女様に頼んでくれたんだね、ありがとう」

ーー利用させてもらおうか……やさしく善良なお嬢様

「いいの、いいの！　怪我ない！？　巫女様に、ひどいことされなかった？」

「いや……え？」

巫女は一人残るといい……

完全に魔法を封じられていた

「気配遮断、鍵開けが、超級……そんな巫女がいたとはな」

――結構いますけど、黙っていましょう

囚われの娘たちは多数

一人一人、解放し、逃亡させていた

「なあ、俺たちも、早く逃げたほうが」

逃がした娘たちにより、悪党一派のアジトは、神殿に知られている

「この女が先だ」

男の声には怒りが感じられる

ーーさすがに隙が無くなりましたか

「きさまのせいで、すべて無駄になった」

封印された巫女を、男たちが二人がかりで見張っている

「ゆっくりと、恐怖におびえながら、死んでいくといい」

男たちは、もう油断をしていない

「女を吊るせ」

「……っ……」

巫女の身体が反射的に強張る

「安心しろ、まだ殺さない」

天井から鎖で吊るされた後

「ぐっ……ごほごほ……」

恨みをこめた拳で腹を強打される

「時間はねえから、この程度ですんでいるんだぜ、巫女様よ」

「…かっ！…ぐっ！…」

「殺さない程度にしろよ」

巫女は、男たちに、身体を殴られ続けられ、そのうち、声さえ出せなくなる

「もういいだろう、魔具を巻け」

痛めつけられえた身体から血が流れ、ポタポタと、つま先から地面に落ちる

巫女の身体に、新たな魔具が乱暴に巻かれた

「聞こえているか？」

「…っ……」

「その丸っこいのは、時間がたてば、熱をおびて赤くなり、しばらくして発動するやつだ」

「爆弾じゃないぜ？　ただ、長くて固い針が出るだけだ」

「…う……く……」

「悲鳴がたまらねえんだがな。残念だ」

バタバタと男たちが逃げていく

巫女は一人残された

回復魔法は使えない、神殿の仲間も間に合わない

巫女は身体に熱を感じる

新たな魔具が赤くなっていた……

「あぁああ！」

強引に鎖を引きちぎられた痛みに、思わず悲鳴をあげる

魔具は巫女の身体から、離れ……

その直後、白い肌にではなく、宙に向かって、赤い針を出す

「はっ…死ぬかと思いました……ぐっ……」

アジトの中で、娘たちを助けながら、見つけた魔具に、魔法を仕掛けいた

もし、男たちが、仕掛けに気がついていたら…巫女を殴り殺すことを選んでいたら…

「ひ…日頃の行いのおかげでしょうか…」

第一話　潜入　完
遠方から魔具を操られないか試す前に、あの巫女が解決していた
ーーこの娘を利用するにしても、油断してはならない……それにしても、まさか…
「魔法使いちゃん、どうしたの？　巫女様がたまにする、かっこつけポーズみたい」
千里眼で一部始終みていた魔法使いの娘
ーー……神殿にとって【汚れた娘】たちを、助けていたとはな……何のつもりだ……

【製作サークル名】

ざこきゃら堂

https://www.dlsite.com/maniax/circle/profile/=/maker_id/RG48158.html

２０２１年春発売